

彩の国
埼玉県



令和5年度

業 務 報 告

埼玉県秩父高原牧場
彩の国ふれあい牧場

目次

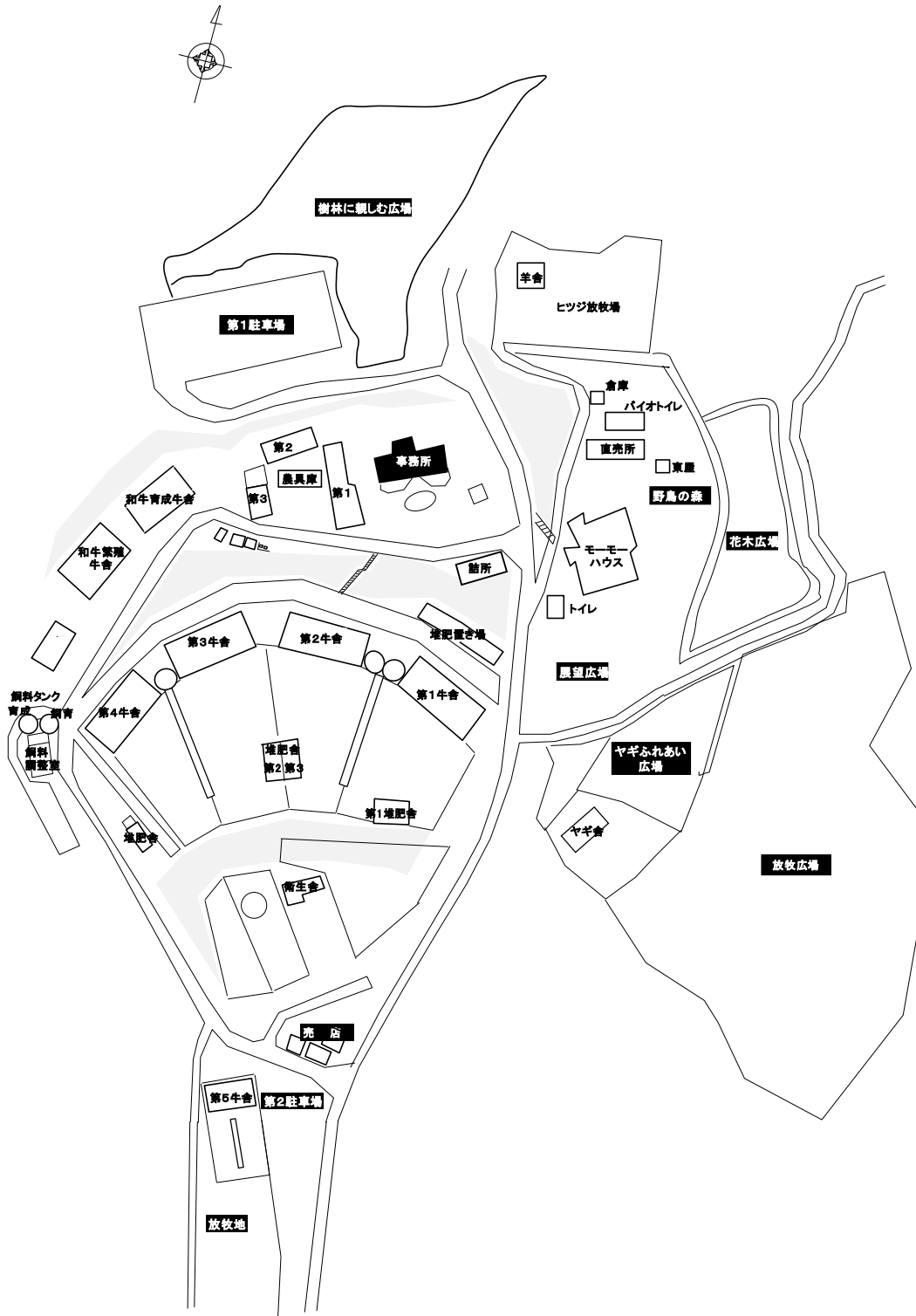
ページ

位置図	1
牧場事務所周辺建物配置図	2
第1章 総説	
1 沿革	3
2 位置及び交通	4
3 地勢及び地質	4
4 気象	4
5 土地の概要	4
6 用地の使用区分	5
7 施設及び機械器具	5
8 機構	7
9 歳入歳出の執行状況	8
第2章 家畜管理事業	
1 概要	9
2 家畜管理	10
（1）家畜飼養頭数	10
（2）譲渡成績	10
（3）受託牛入牧状況	12
（4）発育成績	12
（5）繁殖成績	12
（6）衛生関係	14
第3章 草地管理事業	
1 概要	16
2 草地管理	16
（1）生産量	17
（2）施肥	17
3 草地更新及び飼料作物作付実績	18
第4章 彩の国ふれあい牧場運営状況	
1 概要	19
2 ふれあい動物の管理	19
3 花にあふれる牧場づくり	19
4 モーモーハウスの入館者数	19
5 彩の国ふれあい牧場への入り込み客数	20
6 牛乳を利用した体験実習等実績	21
7 イベントの開催	21
第5章 施設整備実施状況	
1 概要	22
2 実績及び計画	22

位置図



牧場事務所周辺建物配置図



第 1 章 総説

1 沿革

○ 昭和 38 年度～42 年度

県営牧場建設候補地として、秩父郡皆野町及び東秩父村にまたがる地域の他、小鹿野町吉田町、秩父市、大滝村等 4 地域について「草地開発基本調査」を実施。

○ 昭和 43 年 4 月

調査結果から皆野町、東秩父村を予定地として選定し、両町村に説明、協力を要請し現在地決定

○ 昭和 43 年 11 月

県は牧場建設の推進を図るため、皆野町旧三沢村役場庁舎に「二本木乳牛育成牧場準備事務所」を設置し調査、測量、設計、建設計画の作成、用地買収等を開始。

○ 昭和 43 年度～44 年度

共同利用模範牧場設置事業に基づく調査機関として農林省に協力し、牧場予定地 480ha の調査並びに「共同利用模範牧場設置計画」の作成。

○ 昭和 45 年度～47 年度

農地開発機械公団が農林省の委託を受けて開設、昭和 46 年度から県が管理運営を行う。

(1) 公団施行分 653,500 千円 (草地造成 231.22ha、道路 9,264.8m、畜舎、機械施設外)

(2) 県単施行分 681,515 千円 (買収 218.23ha、借地 133.59ha)

(3) 道 路 160.208 千円

計 1,495,223 千円

○ 昭和 48 年 4 月

施設竣工に伴い、名称を「埼玉県秩父高原牧場」に改称し、正式に牧場業務開始 (4 月 11 日開場式)

開場に伴い場長、次長、庶務、家畜、草地の三課 20 名の組織が確立された。

○ 昭和 49 年 2 月

現庁舎 (600 m²、77,189 千円) が新築落成。

○ 昭和 52 年度～57 年度

公共育成牧場整備事業

総事業費 539,569 千円

牧場の生産基盤を整備して、牧養力の向上を図るため「公共育成牧場整備事業」により、草地造成改良、道路整備改良、施設及び機械の整備強化を図った。

○ 昭和 63 年度～平成元年度

公共育成牧場基盤整備事業

総事業費 90,735 千円

第 2 回公共育成牧場基盤整備事業実施で、草地、道路の整備改良と、施設及び機械の整備強化を図ることにより牧養力の向上に努めた。

○ 平成 2 年度～8 年度

秩父高原牧場機能強化事業

優良な乳用・肉用後継牛の確保により、酪農及び肉用牛経営の安定化を図るため、牧場機能を充実した。

総事業費 605,707 千円

○ 平成 5 年度～8 年度

彩の国ふれあい牧場施設整備事業

牧場の一部(7ha)を開放し、モーモーハウス、遊歩道、樹林に親しむ広場等を計画的に整備し、牧場の多面的機能を活用し、県民に憩いの場を提供した。

総事業費 390,028 千円

埼玉県ふれあい牧場 (条例施行 平成 9 年 4 月 1 日 開場 平成 9 年 5 月 18 日)

- 平成 9 年度～12 年度
団体営公共牧場整備事業
草地、牧道、牧柵を整備改良し、高品質な飼料の増産と作業の安全を図った。
総事業費 163,898 千円
- 平成 20 年度～24 年度
秩父高原牧場機能強化緊急対策事業（自給飼料生産施設整備事業）
牧草地、農業用機械、遊歩道等の整備を行い、高品質飼料の効率的生産及び施設の充実を図った。
総事業費 82,583 千円
- 平成 23 年度～30 年度
秩父高原牧場機能強化緊急対策事業（牛舎等施設整備事業）
老朽化した牛舎及びふれあい牧場の施設改修を行う。
総事業費 210,276 千円
- 平成 26 年度～30 年度
埼玉の肉牛を守り、育てる生産構造転換事業
牛舎改修、機器等の整備を行い、和牛授精卵の採胚・受託牛等への移植、その子牛（2～4 日齢）の購入・譲渡（概 10 ヶ月齢）により、県内和牛生産の拡大を図る。
総事業費 166,396 千円
- 平成 29 年度
秩父高原牧場地域交流施設整備事業
新たに県産農畜産物直売所や動物とのふれあいコーナーなどの地域交流施設を整備することで、本県の畜産に対する県民の理解をさらに深めるとともに、一層の地域振興を図る（地方創生拠点整備交付金を活用）。
総事業費 99,509 千円
- 令和元年度～2 年度
令和元年度農地農業用施設災害復旧事業
令和元年 10 月 12 日に発生した台風 19 号により被災した牧場管理道及び採草地の復旧を図る。
総事業費 135,223 千円

2 位置及び交通

牧場事務所及び施設等の所在地

埼玉県秩父郡東秩父村大字坂本 2951 番地

交通

- ◎ 秩父鉄道親鼻駅下車、西武バス三沢廻り、秩父行、病院前下車 徒歩 90 分
- ◎ 東武東上線、八高線小川町駅下車、イーグルバス白石車庫行、橋場下車 徒歩 90 分

3 地勢及び地質

牧場は、二本木峠から粥仁田峠を経て大霧山に至る 4.2km の稜線上を東西 2.9km にまたがる地域で、表層土は秩父古生層系火山灰、通称関東ローム層と呼ばれる土壌と、一部には蛇紋岩の風化した土壌に覆われている。

4 気象

標高 270m から 766m にわたる地域で、やや高冷地に属している。気温は平地に比べ 3～4 度低いうえ、霧の発生も比較的多いが、冬期の積雪量は少ない。

5 土地の概要

総面積 351.82ha（県有地 218.23ha、借地 133.59ha）

内秩父郡皆野町分 223.34ha

秩父郡東秩父村分 129.48ha

草地は、昭和45年から昭和47年に造成されたが、急傾斜地、石礫の多いことに加えて起伏が多く、不陸がさくそうしている。造成面積は次のとおりである。

1～2級地（傾斜度 0°～15°）52.92ha 機械造成。3級A地（傾斜度 16°～20°）49.71ha 機械と人力の併用造成。3級B地（傾斜度 20°以上）128.56ha 人力造成。

6 用地の使用区分

（令和6年度3月31日現在）

区分	草地		計	樹林地	その他	合計
	採草地	放牧地 (野草地)			(基地) 道路等	
管理面積	27.16ha	207.03ha	234.19ha	94.20ha	23.53ha	351.82ha

7 主な施設及び機械器具

○ 給水施設は、皆野町三沢川の支流、高府地川に揚水所を設け、高圧多段式ポンプ（実揚程289m）で山頂の貯水タンク（200m³）に送水。これを濾過殺菌して牧場全体に配水している。

（1）施設

（令和6年3月31日）

区 分	数量等	備 考
事 務 所	600.02 m ²	鉄筋コンクリート造 大屋根 2階モルタル仕上
監 視 舎	116.93 m ²	詰め所
畜 舎	3,829.03 m ²	育成牛舎 4・避難舎 5・肉用分娩牛舎 1・肉用育成牛舎 2
衛 生 舎	93.80 m ²	衛生舎・牛舎
農 具 庫	672.13 m ²	第1農具庫・第2農具庫・農機具収納庫・車庫 2
飼 料 庫	191.67 m ²	飼料庫 90 m ² ・粗飼料庫 101.67 m ²
給 餌 舎	147.8 m ²	2棟
汚水処理施設	一 式	原水槽 252 m ² ・曝気槽 308 m ² ・調整槽 696 m ² ・中継槽 353 m ²
燃 料 庫	12.15 m ²	
給 油 所	一 式	ガソリン 1,000 ㍓・軽油 2,000 ㍓
サ イ ロ	7 基	タワー 内径 5m 高さ 12m 3基(休止) バンカー 巾 3.5m×高さ 3m×長さ 16m 1基(2槽式) バンカー 巾 3.5m×高さ 3m×長さ 10m 1基 バンカー 巾 4.0m×高さ 3m×長さ 11.25m 2基
給 水 施 設	一 式	高圧多段揚水ポンプ 2基・給水タンク 200t 1基・配水管延長 12,900m
トラックスケール	一 式	レバートロニクス式 30t 計量 3×8m
隔 障 物	87,402 m	牧柵
道 路	12,516 m	幹線道路 5,443m・管理道路 7,073m
駐 車 場	2,651.00 m ²	1か所 89台収容

トイレ	17.16 m ²	1 棟
遊歩道	804 m	
木柵	2,582 m	3、5 段張り(杉材)
多目的広場	5,000.00 m ²	
モーターハウス	599.02 m ²	木造一部鉄骨フッ素樹脂鋼板(事務室、展示室、研修室、実習室)
動物飼育舎	66.24 m ²	非木造
浄水施設	一式	急速砂層濾過装置 1 基・貯水槽 23t・膜濾過装置 (飲用)
第 1 堆肥舎	103.68 m ²	
第 2、第 3 堆肥舎	207.36 m ²	
堆肥舎	50.00 m ²	
羊舎	68.00 m ²	
倉庫	11.05 m ²	
直売所	39.74 m ²	
バイオトイレ	9.93 m ²	

(2) 主な機械器具

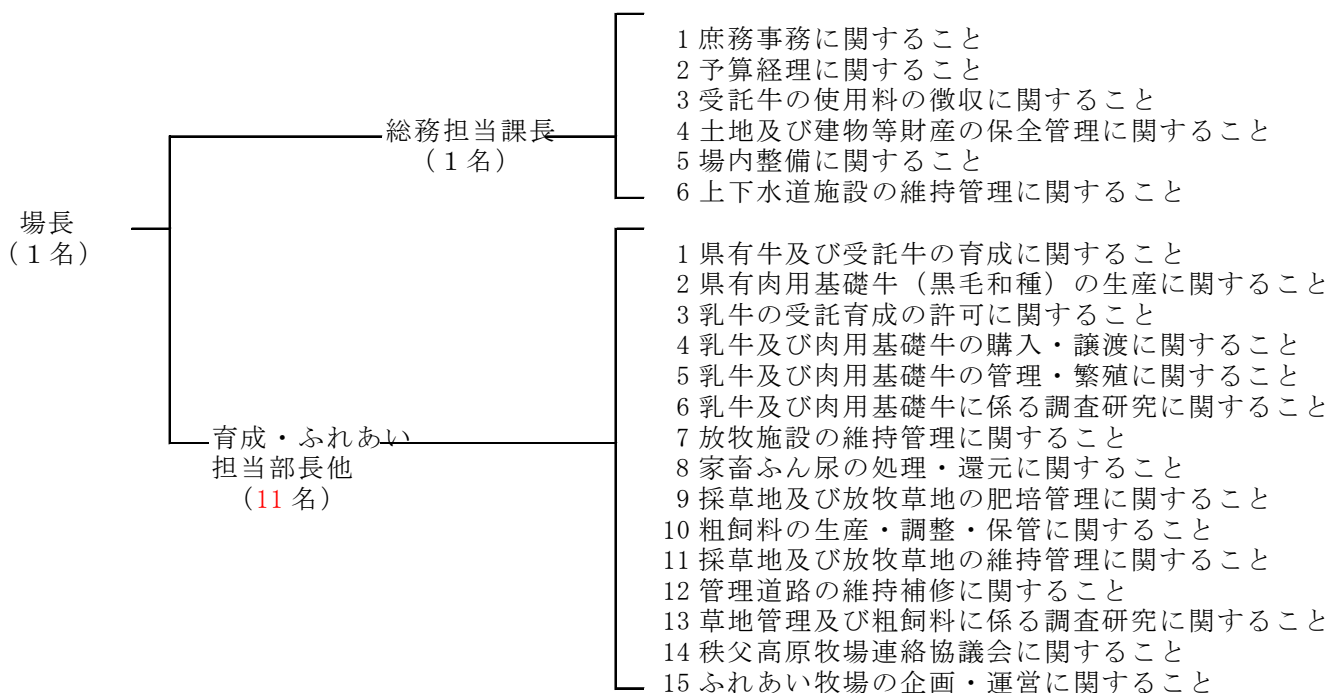
(令和 6 年 3 月 31 日現在)

品名	数量	規格	用途
普通貨物自動車	3	日野FX2AB、日産ディーゼルMF211、三菱パジェロ (スノープレウ付)	全般
トラクター	7	マッセファーガソンMF290、フォート 4100 (2台)、7840、8210、ニューホラント T6-175・T6-155	全般
クローラ型トラクター	1	小松D20	整地・造成
スキッドステアローダー	3	ホブキャットローダー 1 台、トヨタL&F5SDK10、ニューホラント L318	牛ふん搬出
ホイールローダー	2	三菱WS500A11、キャタピラー907M	全般
バックホー	1	三菱WS500A11アタッチ	掘削
牛衡機	2	IRPD2000、E・2000s	牛の体重測定
給水ポンプエンジン	1	富士重工製	給水
ラウンドベラー	1	ニューホラント 120×140モデル848	牧草の収穫
ラッピングマシーン	1	NR 3 0 1	牧草の収穫
簡易草地更新機	2	ニプロPRN801、クボタ3P806NT	草地の簡易更新
マニアスプレッダ	1	m f 1 9 - 1 3 0 B	堆肥散布
普通貨物自動車 (ユニック)	1	三菱2.9tセルフクレーン	重量物の積降し・輸送
小型貨物自動車	3	三菱キャンター、三菱ミニキャブ、日産パネット	全般
普通乗用自動車	3	三菱パジェロ、ホンダCRV、三菱デリカ	家畜管理
ソフトサーバー	1	日世(株)製	アイスクリーム製造

ベールラッパー	1	TWM1610 (株)IHIスター	牧草の収穫
カッティングロールベアラ-	1	BR7060 ニューホランド	牧草の収穫
モア コンディショナー	1	FC 303GC	牧草の収穫
ハンマーナイフモア	2	SH1550A、HM5500	雑灌木の刈り払い
テッダー	1	クーンHFT502	牧草の収穫
ディスクモア	1	クーンHFT500	牧草の収穫
超音波画像診断装置	1	富士平HS-101VN	妊娠鑑定
ガス滅菌機	1	ES0-S-3A	器具殺菌
プログラムフリーザー	1	富士平ペルチェETフリーザー	受精卵保存

8 機構

(1) 組織と業務内容 (令和6年3月31日現在)



9 歳入歳出の執行状況（秩父高原牧場執行分）

(1) 歳入

区 分	金額(千円)	備 考
行政財産使用料	267	電柱等敷地料他
畜産業使用料	30,027	受託牛育成料
畜産業手数料	619	人工授精料他
土地建物貸付収入	48	農産物直売所等用地貸付料
物品売払収入	495	不用物品売払他
生産物及び物品売払収入	19,086	育成牛譲渡代他
雑入	56	農産物直売所水道料他
県債	4,835	一般単独事業、行政改革推進債
一般財源	33,730	
歳入合計	89,163	

(2) 歳出

区 分	金額(千円)	備 考
旅費	156	
需用費	71,109	飼料費、修繕費、燃料費他
役務費	4,180	通信運搬費、手数料他
委託料	1,348	三沢橋補修工事設計、浄化槽点検他
使用料及び賃借料	5,079	牧場用地借上料、トラックリース料他
備品購入費	6,446	ハンマーナイフ
負担金	162	地域交流牧場会費他
補償補填	454	委託育成牛事故補償
公課費	229	公用車車検
歳出合計	89,163	

(会計年度任用職員の給与費等は除く)

第2章 家畜管理事業

1 概要

県内の酪農家から乳用雌牛（生後6～12か月齢）を受託し、育成と人工授精、胚移植を行い、酪農家の経営の基礎となる優良後継牛の供給を行っている。

育成管理は、4月から10月の放牧飼育、11月から3月の舎飼飼育に大別される。

平成元年度からは、県外肉牛産地から導入した繁殖肉用基礎雌牛（黒毛和種）を基に、生産された産子を県内の肉用牛農家に譲渡し、肉用牛生産振興を図っている。

また、平成27年度から、当該における和牛子牛の生産力を強化し、県内肉用牛農家等へ和牛子牛を安定的に供給することで和牛生産基盤の強化を図ることを目的に、「埼玉の肉牛を守り・育てる生産構造転換事業」を開始、現在も事業内容は継続実施している（肉牛事業）。

（1）受託育成牛

新規受託育成牛74頭、前年度からの継続受託育成牛（周年牛）129頭、計203頭を受託育成した。

（2）県有牛育成事業（ホルスタイン種）

令和2年度に買い上げた3頭のうち1頭を県内酪農家に譲渡した。（3頭のうち2頭については、令和4年度に譲渡済み）また、令和5年度は新たに2頭の子牛を県内酪農家から買い上げた（平均買取価格129,800円）。

（3）優良肉用基礎牛（黒毛和種、日本短角種）

黒毛和種について、宮崎県産導入牛8頭（20年度2頭、27年度3頭、令和4年度3頭）、当該生産牛25頭、日本短角種6頭の計39頭を飼養、うち35頭を繁殖に供し、15頭が分娩した。肥育素牛及び繁殖雌牛として13頭を県内の肉用牛農家等に譲渡した。

（4）肉牛事業

当該生産黒毛和種胚を移植、受胎した受託牛の産子を2～3日齢で買上げ、育成し、県内の肉用牛農家に譲渡している。令和5年度は48頭を買上げ（平均買取価格217,375円）、肥育素牛及び繁殖雌牛として31頭を県内の肉用牛農家等に譲渡した。また、新たに雌牛4頭を優良肉用基礎牛として場内での供用を開始した。

（5）人工授精及び胚移植

繁殖対象牛は、14か月齢、体高125cm、体重340kgを目安とし、被乗駕行動を主体に発情の発現状況を観察し、適期と思われる時期に人工授精、胚移植を行っている。

（6）受託牛の募集及び選定

受託牛の募集及び入牧牛の選定、入牧時検査等については各家畜保健衛生所の協力を得て実施した。

（7）衛生管理

衛生対策プログラムに基づき定期的に衛生検査を実施し、ヒパロウイルス病、肺炎等の発生防止、治療等に努めた。

（8）放牧

周年受託育成牛および県有和牛（黒毛和種、日本短角種）は4月から再放牧を開始した。新規受託育成牛は、4月下旬から各群2週間程度の馴致放牧を実施し、その後全放牧（昼夜放牧）とした。

2 家畜管理

(1) 家畜飼養頭数

受託牛の令和5年度月別飼養状況は下記のとおりである。(月末頭数)

※県有牛(ホルスタイン)は除外

表1 受託牛月別飼養状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
R3年度	17	12	11	9	5	2	1	1	0	0	0	0
R4年度	109	109	104	103	101	92	82	71	63	51	42	31
R5年度	0	0	17	27	31	40	49	49	57	64	65	74

(2) 譲渡成績

ア ホルスタイン種

令和5年度の譲渡はなかった。

イ 黒毛和種

譲渡月齢は概ね10か月齢である。繁殖用黒毛和種および日本短角種が分娩した産子のうち、雄(去勢)及び雌を肥育素牛として8頭、繁殖雌牛として5頭、合計13頭を譲渡した。

また、肉牛事業対象では、肥育素牛として29頭、繁殖雌牛として2頭、合計31頭を譲渡した。個体別の系統、譲渡価格等は表2のとおりである。

表2 県有黒毛和種譲渡牛一覧
(表区分の新規は新規肉牛事業)

No.	新規	名号	性別	区分	生年月日	父	2代祖	3代祖	譲渡日	譲渡価格
1	○	しんちちぶ142	雌	繁殖	R4.6.8	諒太郎	福之国	安平	R5.4.26	507,007
2		たかちちぶ255	雌	肥育	R4.7.1	百合福久	福桜	福之国	R5.4.26	356,627
3		埼高牧317	雄	肥育	R4.7.11	若百合	福之国	福桜(宮崎)	R5.9.20	280,267
4	○	新高牧155	雄	肥育	R4.7.13	関平照	隆之国	忠富士	R5.4.26	470,898
5	○	新高牧156	雄	肥育	R4.7.26	関平照	隆之国	忠富士	R5.4.26	493,088
6	○	しんちちぶ143	雌	肥育	R4.7.26	関平照	隆之国	忠富士	R5.4.26	445,030
7		たかちちぶ256	雌	肥育	R4.7.29	隆之国	勝乃幸	安福久	R5.4.26	351,010
8		たかちちぶ257	雌	繁殖	R4.8.14	関平照	隆之国	忠富士	R5.5.24	393,982
9	○	しんちちぶ144	雌	肥育	R4.8.14	紀多福	美徳国	忠富士	R5.5.31	458,045
10	○	新高牧157	雄	肥育	R4.8.14	関平照	隆之国	忠富士	R5.5.31	426,995
11	○	新高牧158	雄	肥育	R4.8.23	紀多福	美徳国	忠富士	R5.5.31	574,048
12	○	しんちちぶ145	雌	肥育	R4.9.7	紀多福	美徳国	忠富士	R5.5.31	470,422
13		たかちちぶ258	雌	繁殖	R4.9.12	美津金幸	安福久	忠富士	R5.7.26	430,511
14	○	しんちちぶ146	雌	肥育	R4.9.17	紀多福	美徳国	忠富士	R5.6.21	417,542
15	○	新高牧159	雄	肥育	R4.9.17	紀多福	美徳国	忠富士	R5.6.21	561,302
16	○	新高牧160	雄	肥育	R4.9.22	関平照	隆之国	忠富士	R5.6.21	489,811
17	○	しんちちぶ147	雌	肥育	R4.9.29	関平照	隆之国	忠富士	R5.6.21	423,305
18		たかちちぶ261	雌	繁殖	R4.10.4	美津照重	忠富士	福之国	R5.8.30	385,789
19	○	しんちちぶ148	雌	肥育	R4.10.6	関平照	隆之国	忠富士	R5.8.22	400,093
20	○	しんちちぶ150	雌	肥育	R4.10.20	紀多福	美徳国	忠富士	R5.8.22	457,057
21	○	新高牧161	雄	肥育	R4.10.24	関平照	隆之国	忠富士	R5.8.22	495,867
22	○	しんちちぶ153	雌	肥育	R4.12.10	関平照	隆之国	忠富士	R5.9.20	341,991
23	○	しんちちぶ154	雌	肥育	R4.12.13	百合白濱2	福桜(宮崎)	福之国	R5.10.27	297,128
24	○	しんちちぶ155	雌	肥育	R4.12.17	美津照重	忠富士	福之国	R5.10.27	417,425
25		たかちちぶ262	雌	肥育	R4.12.22	光平照	平茂勝	福之国	R5.9.20	390,796
26	○	しんちちぶ156	雌	繁殖	R5.1.3	安龜忠	百合茂	安福久	R5.10.31	424,517
27	○	しんちちぶ157	雌	肥育	R5.1.13	美津照重	忠富士	福之国	R6.1.23	264,808
28	○	新高牧162	雄	肥育	R5.1.20	関平照	隆之国	忠富士	R5.10.31	472,194
29	○	新高牧163	雄	肥育	R5.1.23	関平照	隆之国	忠富士	R5.10.30	439,862
30	○	新高牧164	雄	肥育	R5.2.3	美津照重	忠富士	福之国	R5.11.28	376,063
31		埼高牧318	雄	肥育	R5.2.9	耕富士	安福久	勝忠平	R5.11.29	556,838
32		埼高牧319	雄	肥育	R5.2.12	耕富士	安福久	平茂勝	R5.11.29	550,929
33	○	新高牧165	雄	肥育	R5.3.3	関平照	隆之国	忠富士	R5.12.26	503,911
34	○	しんちちぶ159	雌	肥育	R5.3.23	隆安国	美国桜	忠富士	R5.12.25	295,615
35	○	新高牧167	雄	肥育	R5.3.31	関平照	隆之国	忠富士	R5.12.25	402,765
36		たかちちぶ264	雌	肥育	R5.4.3	葉山桜	勝平正	福之国	R5.1.24	373,494
37	○	しんちちぶ162	雌	肥育	R5.4.10	美津金幸	平茂勝	福之国	R5.1.24	375,026
38	○	新高牧168	雄	肥育	R5.4.14	安龜忠	百合茂	安福久	R5.1.23	460,992
39		埼高牧320	雄	肥育	R5.4.23	百合福久	美徳国	福之国	R6.2.29	432,340
40	○	新高牧169	雄	肥育	R6.5.11	関平照	隆之国	忠富士	R6.2.27	480,264
41	○	新高牧170	雄	肥育	R5.5.15	関平照	隆之国	忠富士	R6.2.28	435,565
42	○	しんちちぶ165	雌	肥育	R5.6.11	美津照重	忠富士	福之国	R6.3.19	365,433
43		たかちちぶ265	雌	繁殖	R5.6.14	百合茂	安福久	忠富士	R6.3.19	423,193
44		たかちちぶ266	雌	繁殖	R5.6.28	福之姫	安福久	勝忠平	R6.3.19	324,548

(3) 受託牛入牧状況

入牧状況は表3のとおり、随時入牧を行い、延べ40戸の農家から合計74頭の牛を受託した。

表3 令和5年度 受託牛入牧状況

	入牧回数	市町村数	戸数(延べ)	頭数
4月	0	0	0	0
5月	5	6	6	17
6月	5	5	5	10
7月	2	3	3	4
8月	3	4	5	9
9月	4	6	7	9
10月	0	0	0	0
11月	3	3	3	8
12月	3	5	5	7
1月	1	1	1	1
2月	1	1	1	1
3月	3	4	4	7
計	30	38	40	74

(4) 発育成績

発育状況を把握するため、入牧時より放牧期1回、舎飼期1回体重を測定した。令和5年度牛の随時入牧時平均月齢は、8.1ヶ月であり、随時入牧牛の体重平均は223.7kgであった。

入牧牛の12月までの日増体重は293.3g、平均体重267.9kgであった。

入牧後の昼夜放牧による環境の変化、急傾斜の放牧地での運動量の増加、濃厚飼料・貯蔵飼料から生草飼料に切り替わることによる消化管内の微生物叢の変化、群生活によるストレスなどが発育に影響を及ぼす要因となっている。

表4 受託牛体格測定値(定期)

	測定年月	頭数	体高 (cm)	体重 (kg)	平均日増体重 (g)
入牧時	R5年度	74	114.4	223.7	-
放牧期	R5年度	6	-	222.7	415.6
舎飼期	R5年度	61	-	322.6	725.6

* 随時入牧時平均月令:8.1カ月

* 放牧期:4月~10月の放牧30日以上 of R5年度受託牛を対象

* 舎飼期:10月~年度末までの入牧後30日を経過したR5年度受託牛を対象

(5) 繁殖成績

ア ホルスタイン種(受託育成牛と県有牛を含む)

月齢14カ月、体重340kg以上、体高125cmを目安に人工授精及び胚移植を開始した。5月から10月までを夏期とし、発情の同期化処置を行った。

同期化処置は、PGF_{2α}、CIDR等を用い、牛舎収容期間の短縮と作業の省力化を図っている。冬期は、牛舎収容後に主に自然発情により随時実施した。

表5 令和5年度繁殖状況

	授精頭数	授精延べ頭数	受胎頭数	受胎率	精液使用本数
R3年度受託牛	8	19	8	100%	19本
R4年度受託牛	47	77	47	100%	77本
R5年度受託牛	9	10	7	77.8%	10本

* 受精卵移植により受胎した頭数、人工授精未実施頭数は含まれない。

表6 受託牛胚移植成績

頭数：%

年 度	新鮮胚			凍結胚			合計		
	移植	受胎	受胎率	移植	受胎	受胎率	移植	受胎	受胎率
R4	6	2	33.3	107	60	56.1	113	62	54.9
R5	4	2	50.0	124	50	40.3	128	52	40.6

* 外部導入胚を含む

イ 県有和牛（繁殖雌牛）

黒毛和種は宮崎県からの導入牛7頭、当场産22頭、日本短角種導入牛6頭の計35頭を繁殖に供した。また、優良繁殖素牛の確保と肉牛事業推進のため、宮崎県産導入牛を中心とした繁殖雌牛の採胚と胚移植を行った。

表7 県有繁殖和牛繁殖成績

区 分	飼養 頭数	繁殖 供用	繁殖 頭数	分娩 頭数	生産牛		廃用 頭数
					雄	雌	
黒毛和種導入	8	7	7	4	3	1	1
黒毛和種場産	25	22	22	7	5	2	3
日本短角種	6	6	6	4	1	3	0
合 計	39	35	35	15	9	6	4

表8 採胚成績

管理 番号	産 歴	採胚月日	交配種雄牛	回 収	移植可能	胚処理	
				胚 数	胚 数	新 鮮	凍 結
467	9	R5.6.16	花国安福	21	12	0	12
426	12	R5.6.22	福之姫	7	1	1	0
2037	11	R5.6.30	夏百合	8	4	0	4
637	8	R5.7.14	花国安福	8	4	0	4
40	10	R5.7.27	関平照	33	30	1	29
37	7	R5.9.22	福之姫	6	6	1	5
631	8	R6.2.16	福之姫	3	3	0	3
612	8	R6.3.22	福之姫	17	8	1	7
合 計				103	68	4	64
平均	9.1			12.9	8.5		

表9 胚移植成績（県有黒毛和種・日本短角種：繁殖雌牛）

	移植頭数	受胎頭数	受胎率%
新鮮	0	0	0
凍結	8	4	50.0
合計	8	4	50.0

*外部導入胚を含む

(6) 衛生関係

ア 衛生対策

表10のとおり県内家畜保健衛生所の協力を得て実施。

ピロプラズマ病対策については、特にその発生防止に努めている。

R6.2、預託牛1頭についてBLV陽性牛を摘発。それに伴い全預託牛についてBLV検査を実施、陽性牛については衛生舎にて隔離飼養開始。

表10 衛生対策

項目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考	
飼養体系	周年預託 A群	4初旬再放牧							舎飼					再放牧時 アカネ病ワクチン接種	
	B群	舎飼			馴致	全放牧+夏期授精				舎飼					
	夏期委託 C群	4月上旬入牧 舎飼		馴致	全放牧				舎飼					4月上旬入牧	
衛生対策	衛生検査 放牧群	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽自主検査 ♥応援検査 (2週間間隔) 真菌症・乳頭腫治療	
	舎飼群	▽♥	▽♥	▽♥	▽♥	▽♥	▽♥	▽♥	▽♥	▽♥	▽♥	▽♥	▽♥	▽自主検査 ♥応援検査 (3週間間隔) 真菌症・乳頭腫治療	
	ダニ駆除 吸血昆虫対策	衛生検査時 ◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇フルトリン製剤塗布(2週間隔) ETB乳剤噴霧	
	BLV対策													★	
	ワクチン接種 細菌3種	▽ 1回目	▽ 2回目	細菌3種 =マンヘミア+ハスフラ+ヘモフィス					← 個別入牧に応じて随時接種 →					入牧後1週目&5週目に接種	
	アカバネ病	▽												繁殖牛に接種(4月~10月)	
	寄生虫症対策	○										○		入牧時及び放牧収容時 イベルメクチン製剤塗布	
	疾病対策	▽								▽					ビタミンE給与(5日間)
	下痢症対策	▽								▽					生菌剤投与(5日間) 放牧前&収容後
	蹄病対策	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	蹄浴(1回/2週) (舎飼牛対象)
	入牧前検査	牛ウイルス性下痢・ヨーネ病・牛伝染性リンパ腫・サルモネラ症の検査													
	入牧時	全身消毒・ビタミン剤(AD3E)+TSV-3(IBR・PI3・RS)+呼吸器病5種混合ワクチンの接種													

★：全預託牛についてBLV検査を実施、陽性牛を衛生舎にて隔離飼育

イ 疾病発生状況

表12 疾病発生状況

(延べ頭数)

令和5年度	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
消化器系疾患						1			1				1
蹄部疾患		2	5	2	3	2			1				14
低ヘマトクリット		4	8	2	8	11	2	5					40
呼吸器系疾患								1	1				2
眼疾患*			1				8						9
皮膚真菌症**													0
パピローマ**					5	2	3	1	3				14
その他***	1		4	1	7	4	5	5	5	1	1		20

* 角結膜炎等

※ 印の疾病は同一牛で再発生するため、正確な発生数は把握できない。

※※ 除角後化膿、顎・頬部膿瘍等

ウ 死亡・廃用状況

表 13 死亡・廃用状況

	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
廃用							1			2			3
死亡						1							1

第3章 草地管理事業

1 概要

4月から9月に越冬用貯蔵飼料の生産調製作業を行い、その他年間を通して家畜管理作業及び採草地・放牧地の維持管理作業を実施した。

1番草は天候良好で作業は順調だったが、2・3番草については秋口の長雨の影響ため収量が下がった、全般に予乾充分で良質な越冬飼料が生産できた。

対前年比は生草収量 82.3%、ロールの数量 80.4%であった。

(1) 採草地

越冬用貯蔵飼料の調製は、ロールベールのラップサイレージを主体に調製し、その生産量は、生草換算量約 391 t、ロール 347 個であった。

本年度も引き続き乳酸菌の添加処理及びカッティングベールを行い、嗜好性の高いより安定した良質のラップサイレージの生産に努めた。

(2) 放牧地

放牧地は、造成後 40 年以上経過した傾斜地が主で、石礫混じりの火山灰土壌、牧養力低く雑草や灌木の侵入が著しい。

管理作業は人力作業が主だが、機械作業が可能な牧区は、効率的な管理作業を行い草勢の維持を図った。

(3) その他

ア 関係施設や車両・作業機の点検・整備し、安全かつ安定した作業が実施できるように努めた。

イ 一般県民を対象に、ふれあい牧場機能向上のため、「花にあふれる牧場づくり」の一環として一部採草地に観賞用のポピー種子の播種を実施した。

ウ 完熟堆肥を生産し、一般県民に無料配布し堆肥の有効活用を実施した。

2 草地管理

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
施肥	→											→	
化成区													
敷布(採草地)													
堆肥	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	
一般配布	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	
粗飼料準備	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	
収穫・調製作業		→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	
草地整備・更新												→	
石礫除去									→	→			
不良雑草防除	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	
掘除刈り・雑灌木除去	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	
車両・作業機点検整備	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	
放牧・牧利活用	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	
幹線及び管理道整備		→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	
牧場内													
美化作業		→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	
安全対策		→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	

貯蔵粗飼料の生産調製は、ロールベールによるラップサイレージを実施した。

(1) 生産量

ア 1番草

処理期間 5月 11日～7月 12日、収穫面積 21.3ha、生草換算量 117.0 t、217 梱包のラップサイレージを生産した。

イ 2番草

処理期間 7月 19日～9月 13日、収穫面積 14.7ha、生草換算量 68.0t、136 梱包の

ラップサイレージを生産した。

ウ 3 番草

処理期間 9 月 20 日～10 月 3 日、収穫面積 3.0ha、生草換算 10.5t、21 梱包のラップサイレージを生産した。

表 2 採草地生産量

牧区	面積	1 番草			2 番草			3 番草			4 番草			合計			備考	
		収量	Kg/10a	梱包	収量	Kg/10a	梱包	収量	Kg/10a	梱包	収量	Kg/11a	梱包	収量	Kg/10a	梱包		
1-B	3.00	6,500	21,667	13	9,000	6,923	18	10,500	5,833	21	0	0	0	26,000	86,667	52		
1-C	5.18	19,350	37,355	43	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19,350	37,355	43		
2-A	3.30	21,450	65,000	33	30,000	9,091	60	0	0	0	0	0	0	51,450	155,909	93		
2-1	1.60	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
2-4	1.50	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	その他使用	
3-A	3.00	34,200	114,000	57	0	0	0	0	0	0	0	0	0	34,200	114,000	57		
3-A'	1.00	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
3-B	1.50	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	全放牧	
3-2	1.00	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	全放牧	
5-A・B	5.40	26,500	49,074	53	20,500	3,868	41	0	0	0	0	0	0	47,000	87,037	94		
5-C	1.05	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	兼用	
5-D	1.43	9,000	62,937	18	8,500	4,722	17	0	0	0	0	0	0	17,500	122,378	35	兼用	
5-E	0.75	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	全放牧	
計	29.71	117,000	39,381	217	68,000	22,888	136	10,500	3,534	21	0	0	0	195,500	65,803	374		
処理期間																		

(2) 施肥

前年度 3 月に高度化成肥料を散布した。

堆肥散布は、一部の採草地に 11 月から 2 月に実施した。

表 3 採草地施肥量

項目 牧区	面積 (ha)	元肥高度化成	高度化成	kg/10a	備考
1-B	3.00	1.500	1.500	50.0	堆肥散布
1-C	5.18	1.500	1.500	29.0	堆肥散布
小計	8.18	3.000	3.000	36.2	
2-A	3.30	1.500	1.500	45.5	堆肥散布
小計	3.30	1.500	1.500	45.5	
3-A	3.00	1.500	1.500	50.0	堆肥散布
小計	3.00	1.500	1.500	50.0	
5-A.B	5.40	3.000	3.000	55.5	
5-C	1.05	500	500	47.6	
5-D	1.43	500	500	35.0	
小計	7.88	4.000	4.000	50.8	
合計	22.36	10.000	10.000	44.7	

* 高度複合化成 = N-P-K : 14-14-14%

* 令和 5 年度は元肥のみで、追肥は行っていない

3 草地更新及び飼料作物作付実績

更新作業は、グレートプレーンによる不耕起型簡易更新を実施した。

更新は牧草収穫後の再生不良の牧区の自力更新採草地の一部に「花にあふれる牧場づくり」の一環として、ポピー種子の播種を実施した。

表4 草地更新及び草地改良実績

牧 区 名	1-B	1-C	2-A	3-A	5-A, B	
作業区分	簡易更新	全更新	全更新	全更新	簡易更新	
利用区分	採草	観賞	採草	採草	採草	
更新・作付面積	3.0ha	3.5ha	3.3ha	3.0ha	5.4ha	
実施期間	始	11月6日	10月27日	3月1日	3月10日	11月15日
	至	11月9日	10月30日	3月5日	3月13日	11月18日
期間内作業日数	3.0日	3.0日	5.0日	3.0日	3.0日	
雑草防除	-	-	-	-	-	
石れき除去	3.0人	3.0人	3.0人	3.0人	3.0人	
耕起及び整地	簡易更新機	ロータリー	ロータリー	ロータリー	簡易更新機	
播種作業	1人	—	1人	1人	1人	
覆土・鎮圧	1人	1人	1人	1人	1人	
草種構成及び播種量	※1	ポピー	※2	※2	※2	

※1 オーチャード2 イタリアン2 ペレニアル (10a/kg)

※2 オーチャード2 トールフェスク2 ペレニアル (10a/kg)

第4章 彩の国ふれあい牧場運営状況

1 概要

「彩の国ふれあい牧場」は、県民の畜産業への理解を深めるための施設として平成9年度に開場した。本県畜産に関する資料の展示や乳製品作りなどの体験学習、山羊や羊などとのふれあい等を県民に提供している。

2 ふれあい動物の管理

山羊（ヤクシマヤギ）と緬羊（コリデール）、ウサギを飼養している。イベント時に実施するふれあい動物へのエサやりは子供たちに大人気である。

3 花にあふれる牧場づくり

近年、牧場周辺のネモフィラ、アジサイ、スイセン、パンジー、マリーゴールドなどを展望広場の花壇等で栽培に取り組んでいる。

4 モーモーハウスの入館者数

月	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
4	6,264	6,542	7,961	7,280	1,098	6,693	6,122	6,705
5	23,697	16,726	18,056	20,035	0	12,018	12,770	16,108
6	6,273	7,067	12,560	7,442	3,932	997	4,701	5,379
7	5,567	4,463	4,654	3,286	3,482	6,093	5,386	5,538
8	6,749	6,212	9,333	9,280	9,972	8,926	7,973	8,508
9	3,590	4,686	5,853	6,447	5,150	6,509	臨時休園	6,634
10	5,109	3,184	5,229	2,512	5,132	5,509	臨時休園	4,731
11	4,265	4,330	5,950	4,526	7,678	6,432	臨時休園	3,816
12	1,849	1,488	1,954	1,735	2,189	2,370	臨時休園	臨時休園
1	1,092	0	1,310	1,536	0	2,300	臨時休園	臨時休園
2	1,554	0	1,420	2,674	0	1,568	臨時休園	臨時休園
3	3,570	403	4,509	4,677	1,360	4,713	4,522	2,650
計	69,579	55,101	78,789	71,430	39,993	64,128	41,474	60,069
							対前年比	144.8%

5 彩の国ふれあい牧場への入り込み客数

表2 月別入込客数(人)

月	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
4	27,414	31,193	24,269	6,379	35,559	51,129	53,601
5	90,276	120,320	110,771	0	77,210	98,243	103,152
6	41,247	79,742	66,698	40,081	6,524	32,330	43,222
7	28,032	38,426	15,361	32,873	48,039	50,983	50,832
8	34,774	50,412	43,507	73,286	67,028	82,616	82,597
9	22,534	23,274	21,416	34,272	50,129	臨時休園	47,432
10	20,506	27,494	18,360	38,925	38,158	臨時休園	46,237
11	29,599	34,069	26,569	52,215	49,416	臨時休園	36,128
12	11,384	15,001	10,838	11,164	23,130	臨時休園	臨時休園
1	0	12,292	11,471	0	19,884	臨時休園	臨時休園
2	0	8,755	19,611	0	12,944	臨時休園	臨時休園
3	0	27,799	28,570	7,723	44,670	37,024	25,813
計	305,766	468,777	397,441	289,195	472,691	352,325	489,014

表3 年度別入込客数

年度	人数(人)	対前年比(%)
9年度	136,158	127.9
10年度	152,551	112.0
11年度	142,685	93.5
12年度	159,035	111.5
13年度	175,292	110.2
14年度	197,954	112.9
15年度	241,510	122.0
16年度	237,281	98.2
17年度	363,092	153.0
18年度	361,279	99.5
19年度	415,505	115.0
20年度	397,827	95.7
21年度	409,322	102.9
22年度	481,922	117.7
23年度	339,560	70.5
24年度	400,058	117.8
25年度	401,748	100.4
26年度	374,141	93.1
27年度	425,491	113.7
28年度	416,385	97.9
29年度	305,766	73.4
30年度	468,778	153.3
令和元年度	397,441	84.8
2年度	289,195	72.8
3年度	472,691	163.5
4年度	352,325	74.5
5年度	489,014	138.8

6 牛乳を利用した体験実習等実績

土日祝を中心に、手作り体験学習（バター等）を実施した。

表4 年度別体験実習受入実績

年度	人数(人)	個人(人)	団体(人)
12年度	2,952	2,721	231
13年度	3,625	3,215	410
14年度	4,123	3,452	671
15年度	4,847	3,904	943
16年度	4,180	3,157	1,023
17年度	4,342	3,524	818
18年度	4,669	3,389	1,280
19年度	5,812	4,854	958
20年度	6,404	5,761	643
21年度	6,733	5,932	801
22年度	6,194	5,329	865
23年度	5,434	5,088	346
24年度	6,065	5,636	429
25年度	7,096	6,633	463
26年度	6,496	6,309	187
27年度	7,260	6,524	736
28年度	7,042	6,267	775
29年度	5,638	5,214	424
30年度	7,073	6,253	820
令和元年度	5,732	5,440	292
2年度	56	56	0
3年度	923	911	12
4年度	2,764	2,699	65
5年度	3,694	3,610	84

7 イベントの開催

イベント（実施月日）	内容
春祭り（GW期間）	手作りバター体験、 ヤギのエサやり、牛群の呼び寄せ
秋祭り（10月の3連休）	手作りバター体験、 ヤギのエサやり、牛のお絵かき、クイズ
県民の日！牧場まつり（11/14）	手作りバター体験、工作教室、 ヤギ・ウサギへのエサやり

第5章 施設整備実施状況

1 概要

第1次基盤整備事業（S52～57）、第2次整備（S63～H元）、機能強化事業（H2～8）、団体営公共牧場整備事業（H9～12）、畜産環境総合整備事業（H20～24）により、牧場機能を整備してきたが、よりいっそうの充実を図るため、機能強化緊急対策事業を平成23年度から実施している。

2 実績及び計画

年度	工 事 名
H23	第1・第2・第4牛舎屋根・壁等改修、第3牛舎スタンション取り付け モーモーハウス屋根改修工事
H24	和牛繁殖牛舎屋根・壁等改修工事、地下燃料タンク改修
H25	農具庫屋根・壁等改修、和牛育成牛舎屋根・壁等改修
H26	第5牛舎改修及び外餌場新設工事 サイロ1・2改修工事 汚水排水溝改修工事
H27	第1～4牛舎間給餌施設 第4牛舎外給餌施設屋根・餌槽改修工事
H28	なし
H29	雨水排水溝工事、ふれあい牧場展望広場バリアフリー工事
H30	牛舎給水施設改修工事
R1	なし
R2	畜舎汚水浄化施設改修工事
R3	放牧地給水施設改修工事
R4	衛生舎改修工事、モーモーハウスデッキ改修工事
R5	堆肥舎改修工事
R6	浄水施設改修工事、電気設備改修工事